

Governance

ガバナンス・リーガル担当役員メッセージ



取締役
執行役エグゼクティブバイスプレジデント
コンプライアンス推進統括執行役 ゼネラルカOUNシル
藤原 謙

3	1章 MCGグループがめざす姿
22	2章 持続的な成長戦略
56	3章 ESGの強化
57	サステナビリティ担当役員メッセージ
58	サステナビリティ推進
59	サステナビリティ指標
Environment	
62	TCFD提言に基づく報告
64	カーボンニュートラル/ サーキュラーエコノミーの推進
Society	
66	CHROメッセージ
67	人材戦略
72	持続可能なサプライチェーンの構築
73	従業員主導でのOur Way (大切にすべき心構え)の策定
Governance	
74	ガバナンス・リーガル担当役員 メッセージ
75	コーポレートガバナンス体制
80	実効性評価
81	役員報酬
86	リスク管理
88	コンプライアンス
90	取締役一覧
92	社外取締役座談会
95	4章 財務・非財務情報

グローバルなガバナンスを強化しながら、 成長に向けた活発な議論を展開していきます

コーポレート機能の一元化によりERM、 グローバル・コンプライアンス推進プログラムをさらに促進

新体制に移行して一年が経ちました。この間、全執行役が集まりさまざまな課題を議論し、意思決定を行う執行役会議が定着し、マネジメントレベルのOne Team化は一段と進みました。また、DOA(Delegation of Authority:職務権限委譲)を制定し、各執行役の権限を明確化したため、意思決定プロセスの迅速化や効率化が進み、コーポレート機能の一元化も進展しています。一方で、グループ会社も含めた従業員に、いかに改革の意義を理解してもらい、浸透を図っていくかは喫緊の課題です。2022年度に引き続き、社内ポータルサイトやタウンホールミーティングなどを活用し、経営陣全員が、自らの言葉で従業員へメッセージを発信していきます(▶P.54)。

この大組織を運営していくためには、グローバルな規模でのリスク管理体制構築が極めて重要です。そこで当社は、好ましくないリスクへの対応だけでなく、好ましい影響を及ぼすであろう事業機会に内在するリスクにも対応するため、経営の意思決定に資するERM(エンタープライズ・リスクマネジメント)を導入しました。これは事業軸に、機能軸、地域軸も加えた立体的なマトリクス組織によりグループのリスク管理体制を構築するもので、経営の健全性と競争力強化に役立てています(▶P.86)。同時に、コンプライアンス推進活動のグローバルな品質向上と標準化を図る「グローバル・コンプライアンス推進プログラ

ム」の運用を開始しています(▶P.88)。また、その実効性を高めるために、啓発活動や研修・教育活動を継続するとともに、誰もが安心して声を上げられる組織文化を醸成していきます。

モニタリングの強化を通じて取締役会の実効性を高める

2022年度の取締役会の実効性評価(▶P.80)を踏まえ、取締役会議長として、指名委員会等設置会社における取締役会の主な役割を議論し、ポートフォリオマネジメントや中長期戦略の進捗のモニタリング、加えてCEOのパフォーマンスやマネジメント層のサクセッション・プランに関する指名委員会の実効性のさらなる強化を図っていくことなどを確認しました。中でも経営方針「Forging the future 未来を拓く」は、実行・加速フェーズに入るため、その進捗の監督とポートフォリオマネジメントの議論が重要です。マネジメントのサクセッションに関しては、執行役や次世代リーダー層と議論の場を設けていく計画です。

取締役会での議論を深化させていくためには、議題に優先順位をつけるなど適切なアジェンダセッティングが肝要です。また、正しい意思決定のためには、社外取締役との十全な情報共有が不可欠です。当社では、社外取締役連絡会を通じて経営方針や施策への理解促進を図っており、各人がもつ情報の非対称性の通減を心掛けています。今後もより重要な課題の活発な議論を通じてモニタリング機能を強化し、取締役会の実効性を高め、企業価値の向上に努めていきます。